

第5回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会

ウィズコロナ社会とヘルスデータサイエンス

～いま、何が起きているのか、データはどう読むのか～

【主催】 一般社団法人ヘルスデータサイエンティスト協会

【共催】 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構統計数理研究所共同研究

「医療・看護・保健分野におけるデータサイエンティスト育成のためのシステム構築の検討」

【日時】 2020年8月7日(金) 14:00～15:40

【場所】 Web セミナー (Zoom) : 参加申込者にセミナーアドレスをメールで通知します。

【開催趣旨】

近年、ヘルスケアの領域において収集・蓄積されるリアルワールドデータを利活用し、新しいヘルスサービスの価値創造に如何に結びつけるのかに関心が集まっています。そのための方法論がデータアナリティクスです。しかし、まだ具体的な分析事例の検討は不十分で、教育の方法が標準化されていないのも事実です。

本研究会では、医療健康系関連の従事者やデータアナリティクスに広く関心をもつ方々を対象に、特別講演とデータ利活用の事例発表をベースに、最近の動向と方法論を、質疑を通して講演者に平易に解説していただきます。今回は、「ウィズコロナ社会とヘルスデータサイエンス」をテーマに、COVID19 禍でいま何が起きているのか、私たちの意思決定を支える統計情報の何をどこまで理解していなければならないのか、統計モデルとは何か、観察研究と無作為化比較試験でのエビデンス構築のロジックの違いなど、ウィズコロナ社会を迎えて、ヘルスデータサイエンスとアナリティクスの基本的な解説をお願いしました。

【プログラム】

14:00~14:05 開会挨拶

14:05~14:35 特別講演 I 村上 真（株式会社 FiNC Technologies 事業基盤本部ライフサイエンス部部長）

『ライフログデータが語る、ウィズコロナ社会におけるライフスタイルの変化』

概要：弊社が顧客向けに提供している FiNC アプリ（国内累計ダウンロード数 950 万人超）に記録されるライフログデータと約 4000 人に対して実施したユーザーアンケートの分析結果から COVID19 前後の運動量や健康意識の変化とウィズコロナ社会を迎えて生じた新たなライフスタイルを紹介する。

14:35~15:05 特別講演 II 高橋 邦彦（東京医科歯科大学 M&D データ科学センター教授）

『ウィズコロナ社会における統計の役割』

概要：COVID19 禍でメディアその他で氾濫する統計情報。本講演ではそれら統計情報の読み解き方と活用されている諸種の統計モデルの基本、統計に基づく意思決定の在り方を平易に解説し、ウィズコロナ社会で私たちが持つべきデータリテラシーとは何かを考察する。

15:05~15:35 チュートリアル講演 山口 和範（立教大学経営学部長）

『観察研究における因果効果検証への統計的アプローチ～基本的な考え方と方法の紹介』

概要：COVID19 禍では、データに基づく介入効果の検証として、観察記録データに基づく分析成果も多く発表されている。厳密に管理された無作為化比較試験に対して、講演では、観察研究におけるデータから因果効果に言及するための基本的な考え方と統計的手法を紹介する。共変量調整の意味、回帰分析、傾向スコア（マッチング、層化）など、リアルワールドエビデンス構築に向けて必要となる統計モデルの基礎と考え方の解説を平易に行う。

15:35~15:40 閉会挨拶